

1. 一斉教育からセルフ・ラーニング型教育へ

1) はじめに

「教えない教育」というと、驚かれる方も多いでしょう。しかし、教師主導の詰め込み型教育は明らかに限界があります。近年では、学生の“自己学習する力”を高めることに、教育的関心が寄せられています。

従来、大学の教育課程は講義形式中心で行われていましたが、本研究科では、高度専門職業人である臨床心理士の養成に特化するため、臨床経験が豊富な実務家教員を配置し、講義・演習・実習による三位一体の教育課程を展開してきました。学内実習における一斉実習をはじめ、1,300時間超の学外実習やスーパービジョンを保证するユニークな教育課程は、2011年度「臨床心理分野専門職大学院認証評価」においても高い評価をいただきました。

また、2008年度、2009年度に九州大学と共同で行った専門職大学院GP「臨床心理実習における客観的評価方法の構築」では、新しい実習評価システムである『臨床心理実習到達度チェックシート（SELF-CPP）』、ポートフォリオ、フォローアップセッション』を提唱することができました。

2010年度からスタートした「地域支援プロジェクト」では、地域支援と実践教育の融合を目指していますが、実地教育においては、同程度の学力をもつ学生でも、実行能力はそれぞれ異なり、与えられた課題に取り組む問題解決能力・課題遂行能力の相違がある点が浮き彫りになっています。

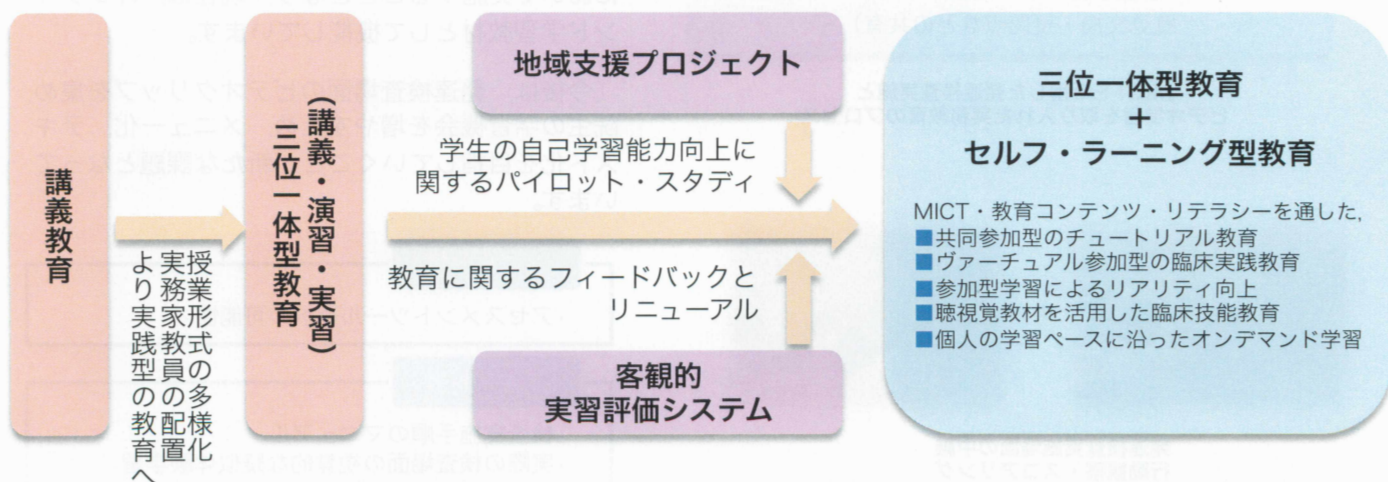
2) セルフ・ラーニング型教育の導入

臨床心理教育は、対人援助職としての教育であり、他者理解という点が重要ですが、“人のこころ”という“見える化”が難しい領域が関係します。

また他者理解の方法論においては、各学派による他者への“まなざし”が微妙に異なるため、臨床心理学としての共通のエビデンスを積み重ねることが意外に難しいのです。

今後は、医療・福祉・教育などの各現場での心理的ニーズを“見える臨床的課題”に置き換え、臨床心理士に求められる具体的支援を想定した実践的学習を重ねるという新しい教育的視点が大切になります。さらに、クライアントや他の専門職や行政機関と連携を行う上で求められる開かれたコミュニケーション能力を獲得する必要もあります。

前章では、その一端をMICTを活用した実践型教育をご紹介しました。学生個人の学習ペースを保証し、積極的な学習態度を育成する「セルフ・ラーニング」、そして、学生同士が教え合い・学び合うための「チーム・ラーニング」による「セルフ・ラーニング型教育」の効果的な導入が主題になるといえるでしょう。



2. セルフ・ラーニング教材を利用した教育の実際

臨床的課題に応じた事前学習会



教員作成による
オリジナルテキスト

※行動観察の方法
発達評価の方法
各心理検査の
基礎学習

学生同士による模擬演習



複数事例の事前検討会



学生による資料作成
(フォーマット補充方式)

問題解決型・課題遂行型のタスク
※アセスメントツール選択
実施手順マニュアル作成
面接構造の決定



相談室実習を通じた実際の支援活動
MICTを活用した遠隔観察実習

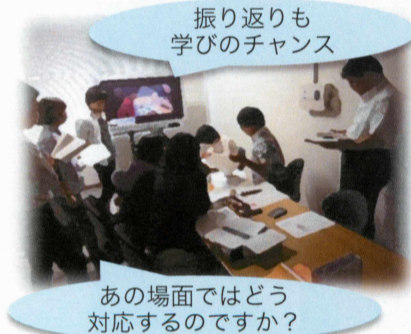
遠隔観察方式なら
ケース経験は数倍に！

今の関わりは
私も真似したい



一方向的な指導から、
学生と教員の学び合いへ

複数事例の事後検討会



実際事例のビデオ・オンデマンド教育



地域支援：MICTを活用した
ハーフ・ヴァーチャル体験
80km先でも繋がる!!



客観的実習評価システム (SELF-CPP, ポートフォリオ, フォローアップセッション)
自己学習到達度チェックシステム (SELF-CPPを個別内容に特化)

臨床心理学的リテラシー化へ (情報をつかいこなす力)
地域の心理学的予防啓発への応用

※守秘義務遵守のため画像は処理しています